

らんどまーく

け ま こ う も ん あ ら い ぜ き

# 毛馬閘門と洗堰

(大阪市都島区)



明治末期の毛馬洗堰の様子



明治時代に活躍した外輪船



新旧淀川の水位差を調節して、船の航行を可能にした毛馬第一閘門のありし日の姿

写真提供:国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

## 淀川の舟運と 治水を守り続けた 水都繁栄の象徴

### 重要文化財となって、再び脚光を浴びる近代土木遺産

古来より淀川とともに栄えてきた水都大阪。淀川は大阪にとって恵みの川である反面、長雨や豪雨に見舞われると牙をむく暴れ川でもありました。明治18年(1885年)淀川左岸が豪雨により決壊。空前の大洪水により、天満橋はじめ大阪市内の約4分の1の橋が流失し、大阪周辺のほぼ全域が泥に沈みました。この未曾有の水害をきっかけに淀川改修の声が高まり、日本初の大規模河川改修計画が決定。大阪市内を蛇行しながら流れていた淀川(現大川)を付け替えて、直接大阪湾へ流れ込むようにするスケールの大きな事業が明治29年(1896年)着工されます。

毛馬第一閘門は、この改修工事の一環として明治40年(1907年)に完成。大正7年(1918年)には第二閘門が完成しました。淀川舟運がまだ盛んだったこの時代、京都・大阪間を行き来する多くの船が閘門を通過する姿は、水都大阪の新たな風景として親しまれたようです。現在の毛馬閘門は、昭和49年(1974年)に造られたものです。廃止された旧洗堰と閘門の一部施設は、河川公園として整備され、市民のオアシスとして開放されています。平成20年、毛馬洗堰、第一閘門は、国の重要文化財に指定されました。

